

科目区分	専門分野 I	授業科目	日常生活援助技術 II (食事、排泄)
講師名	高山 有美子	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	1 年次 第 1 学期
<p>目的：食事、排泄の意義について理解し対象への援助方法を習得する</p> <p>目標：1. 食生活及び排泄への援助の意義を理解できる 2. 食事の援助技術を習得できる 3. 排泄の援助技術を習得できる</p>			
講義概要 メッセージ	<p>食べて排泄することは、生命維持のため不可欠であるとともに誰もが営む日常的な行為です。なんらかの原因により食行動や排泄行動が自力できなくなった患者の力を最大限に引き出す援助ができるように、アセスメントの視点と援助の実際を学びましょう。</p>		
回	講 義 内 容		
1～2	<p>1. 食事援助技術</p> <p>1) 食事援助の基礎知識</p> <p>(1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント</p> <p>①栄養状態 ②摂食・嚥下能力 ③摂食行動</p> <p>(2) 医療施設で提供される食事の種類と形態</p>		
3～4	<p>2) 食事摂取の介助</p> <p>(1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際</p> <p>(3) 学生同士による、食事援助の演習</p>		
5	<p>3) 摂食・嚥下訓練</p> <p>(1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際</p>		
6	<p>4) 非経口的栄養摂取の援助 (演習含む)</p> <p>(1) 経管栄養法、 (2) 中心静脈栄養法</p>		
7～8	<p>2. 排泄援助技術</p> <p>1) 自然排尿および自然排便の基礎知識</p> <p>(1) 排泄の意義</p> <p>(2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム</p> <p>(3) 患者の状態に応じた援助を決定するためのアセスメント</p>		
9～11	<p>2) 自然排尿および自然排便の介助の実際</p> <p>(1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助 (3) おむつによる排泄援助</p> <p>(4) 陰部の清潔 (陰部洗浄)</p> <p>(5) 学生同士による排泄援助、模型を用いた陰部洗浄の演習</p>		
12～13	<p>3) 導尿</p> <p>(1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿</p> <p>(3) 模型を用いた、導尿の演習</p>		
14	<p>4) 排便を促す援助</p> <p>(1) 排便を促す援助の基礎知識 (2) 浣腸 (グリセリン浣腸) (3) 摘便</p> <p>(4) 模型を用いた、浣腸・摘便の演習</p>		
15	<p>5) ストーマケア (1) 基礎知識 (2) 援助の実際</p>		
	終了試験 45 分		
講義方法	講義、演習、デモンストレーション		
評価方法	筆記試験 (90 点満点 45 分)、グループワーク演習とレポート 10 点		
テキスト	<p>医学書院：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II</p> <p>学研：看護技術プラクティス</p>		
備考	既習関連科目：解剖生理学 I・II		